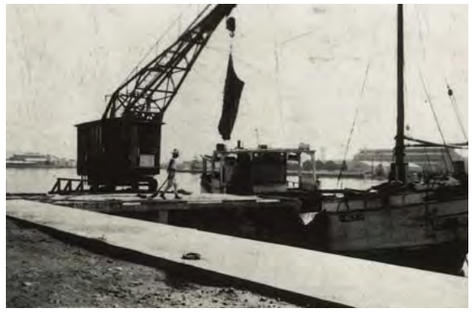
社名を塩谷運輸建設株式会社と改称

—— 1969（昭和44）年

倉庫業への進出で物流体制を一段と強化する一方、旭硝子㈱伊保工場の建設需要がますます活発化していた当社は、1969（昭和44）年7月、その実態に合わせて社名を塩谷運輸建設㈱と改称した。同年、旭硝子㈱でも伊保工場を高砂工場と名称変更しており、これを機に同工場との結びつきをさらに強固なものにしていった。この前年、日本のGNP（国民総生産）がアメリカに次いで世界第2位となり、まさに日本経済は昇天の勢いにあった。高砂市の臨海部でも大規模な開発事業が相次ぎ、播磨臨海工業地帯として目覚ましい発展を遂げており、当社もこれと歩調を合わせて着実な成長を続けていった。

旭硝子㈱高砂工場セラミックス工場の建設現場



当時の港湾荷役風景

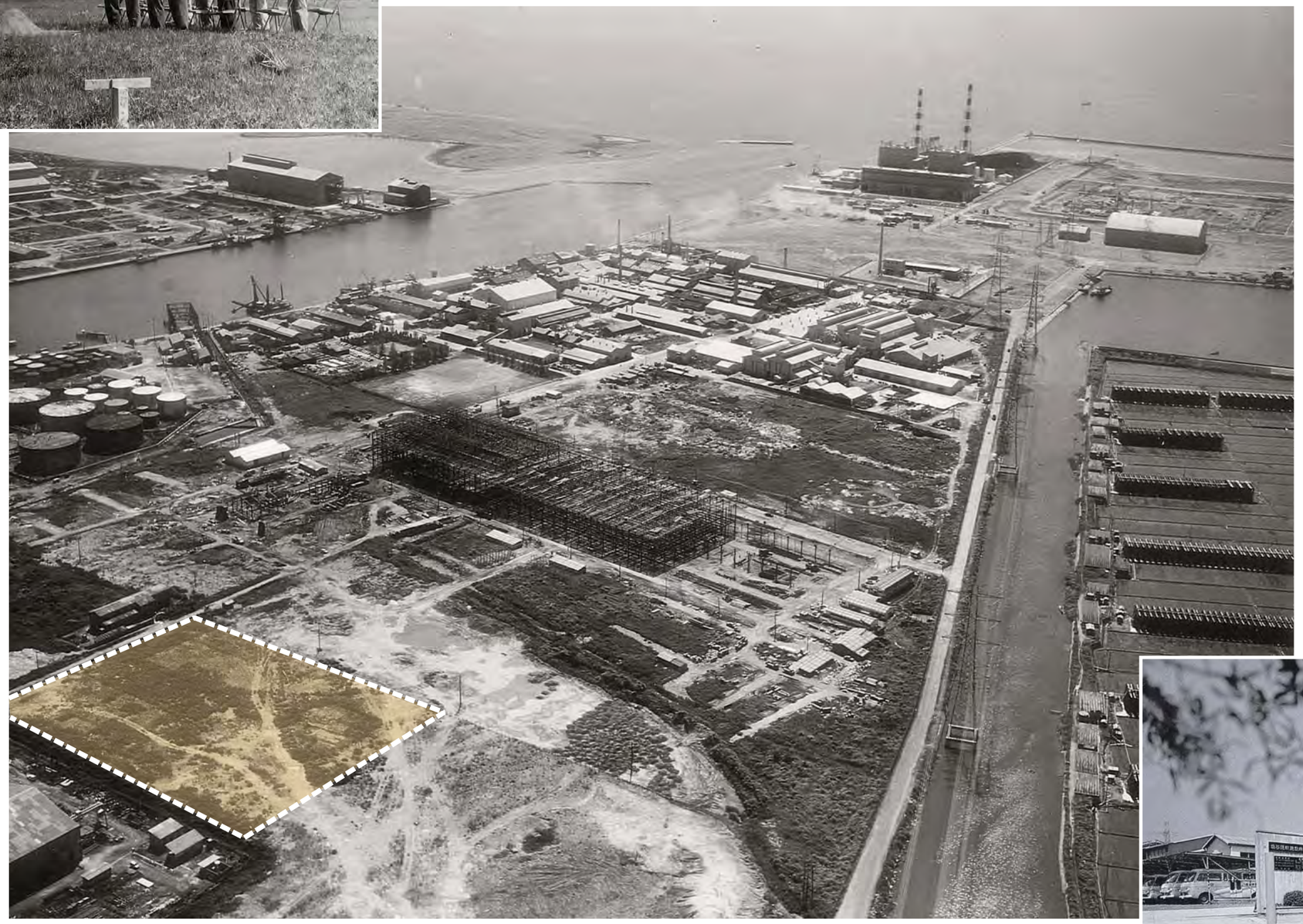
旭硝子㈱高砂工場耐火レンガ初荷式

前へ

現本社所在地に新社屋・鉄工場を建設

―― 1970（昭和45）年

本社建設用地での地鎮祭



本社社屋建設予定地

1970（昭和45）年3月、業容の拡大にともなって当社は高砂市伊保町梅井西新浜212に新社屋を建設し、営業所を開設した。現本社所在地に初めて建てた実質的な本社であったが、登記上の本社所在地は思い入れが深い創業の地に置いたままとした。また、現在タカサゴボデーの建屋がある場所に鉄工場を新築し、それまで旭硝子㈱構内で行ってきた鉄骨加工への取り組みを本格化した。折しも旭硝子㈱高砂工場では工場・施設の新築・増設が相次ぎ、建設部門はそれらの建設工事に追われていたが、鉄工場の新設によって建築ニーズに対する対応力は大幅にアップした。

本社新築（昭和45年）

本社社屋全景

管球ガラス製造ラインの工程内作業を開始

—— 1970（昭和45）年

旭硝子㈱高砂工場内に建設された管球工場

旭硝子製ブラウン管用ガラスバルブ

1970（昭和45）年3月、旭硝子㈱高砂工場でカラーテレビ用管球ガラス製造ラインが稼働を開始したのにともなって、当社はその工程内作業に従事することになった。硝子原料の投入に始まって成型、加工、製品検査、出荷にいたるまで、製造ラインすべてにわたる業務の請負である。以後、カラーテレビの急速な普及にともなって生産量が増大、さらに1970年代後半にブームを巻き起こしたテレビゲームが拍車をかけ、ピーク時には約800人もの従業員がこの仕事に従事した。その後、TFT液晶用ガラスの製造に切り替わるまでこの作業は当社事業の柱として続けられた。

中島倉庫隣接地に建設した中島社宅

大型車整備作業

カーサービスの高砂産業株式会社を設立

―― 1970（昭和45）年

社業の発展とともにトラックを主とする車両台数が増え、これにともなって車両の整備・修理ニーズが増大していった。これに対応するため1970（昭和45）年7月、自動車の整備・修理・販売および保険代理業務を目的として、高砂市伊保町梅井に関連会社高砂産業㈱（現㈱エスタック）を設立した。事業が軌道に乗った1975（昭和50）年には、民間車検場許可を取得して整備・修理対象を単車も含む一般車両へと広げていった。また、ブラウン管用ガラスバルブ生産量の増加とともに所有車両（トラックおよび作業用車両）210台およびマイクロバス等（連絡車含む）40台と大幅に増え、高砂産業㈱の役割は一段と重要性を増していった。

民間車検場となった高砂産業㈱の整備工場

整備作業

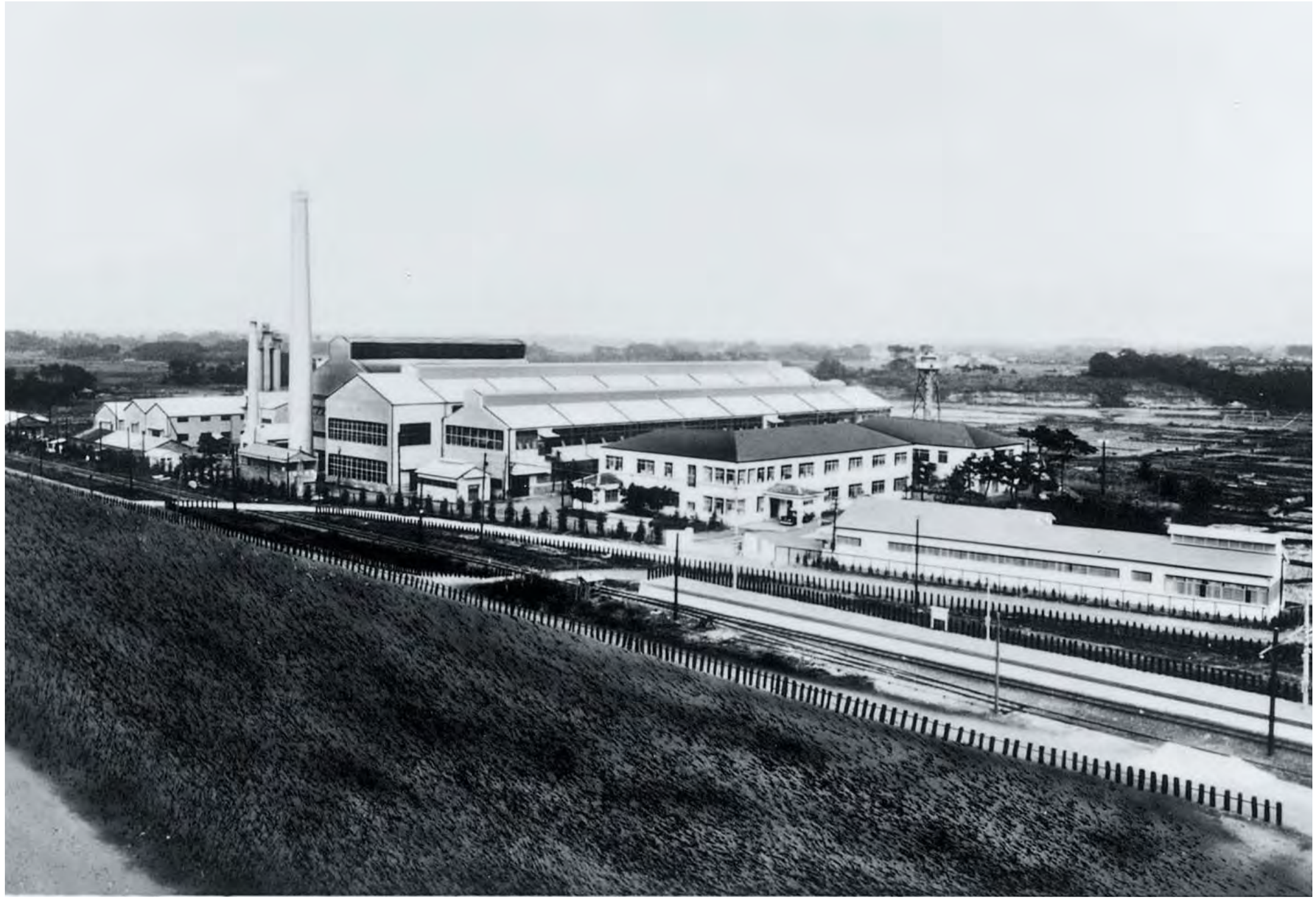
東西間の輸送が活発化し物流拠点を設置

―― 1971（昭和46）年

旭硝子㈱船橋工場の隣接地に確保した船橋支店建設用地

カラーテレビを生産する各電機メーカーの主力工場の多くが関東地区に集中していたのに加え、東西間の輸送が活発化していったことから、当社では旭硝子㈱船橋工場に駐在員を派遣し、5年後には千葉出張所を開設してこれに対処した。また、電機メーカーにおけるテレビパーツの受入れをより効率化する対策の一つとして、三菱電機㈱京都製作所内にも駐在員を常駐させた。一方、増大する輸送需要に対応するため、1974（昭和49）年には自動車運送取扱事業免許を取得した。信頼できる協力運送会社の力を借りることにより、繁閑の波や急な出荷要請などにも即応できる安定的な輸送業務が可能となった。

東西間輸送に活躍した平ボデートラック



ブラウン管用管球ガラスの東の生産拠点、旭特殊硝子㈱船橋工場（後の旭硝子㈱船橋工場）

特定建設業許可を取得して領域を拡大

―― 1972（昭和47）年

（仮称）市立伊保第２小学校（現 伊保南小学校）新築工事（第2工区）

市立伊保小学校第２期増築工事

1971（昭和46）年に建設業法が改正されたのにともなって、当社はその翌年に特定建設業（兵庫県知事）許可を取得した。この許可を取得することによって公共工事などの元請受注が可能になり、受注額が一定金額以下の工事に関しては下請業者に施工させるといった、従来以上に幅広い建設工事ができるようになった。当時はまだ工場のほか社宅やクラブハウスなど、旭硝子㈱高砂工場関連の建設がほぼ100％を占めていたが、昭和50年代に入ると小中学校の建設をはじめとする公共工事を請負うようになり、各種土木工事にも積極的に参画するようになっていった。

（仮称）阿弥陀中学校（現 鹿島中学校）新築工事

鹿嶋神社に「鳥居」を贈呈

次へ